

鹿児島医セン

連携室だより

2008.5 No.26

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

臨床病理科発足

当科は、平成20年4月に新設されました。基本診療科名は、日本病理学会が長年にわたり要望し続け、やっと今年初めて標榜科として認められた、病理診断科ですが、当院では、臨床検査科とシームレスな連携を図る意味で、臨床病理科としました。

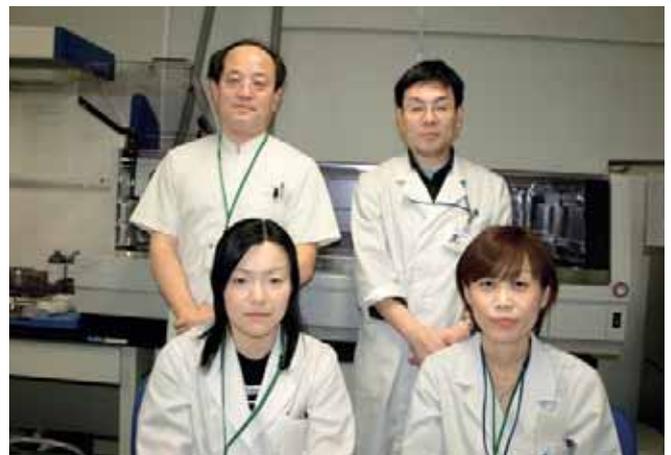
病理診断や細胞診断は、直接に患者の皆さんに接する機会がないため、理解されていないのが実情です。しかし、インフォームドコンセントやセカンドオピニオンの重要性が叫ばれているこの時期に、診療科としても認められた以上、時に臨床医と共同して、患者さんの前に出て疾病に対する理解を深めてもらうためにできる限り、努力して行きたいと考えています。

本来は、鹿児島医療センターが鹿児島大学と並んで鹿児島県のがん拠点病院に指定された昨年時点で設立されるべきでしたが、他の診療科以上に病理医不足が著しく、鹿児島大学医歯学総合研究科の人体がん病理の米澤傑教授以下のスタッフが、少ない人員を割いて、当科の設立に全面的に協力してくださいました。この紙面を通じて感謝申し上げます。

現在、人体がん病理学から野元三治が初代の責任者・病理医として赴任し、病理組織作製室や、切片室、術中迅速診断システム、外科病理診断システムなどの立ち上げを行っています。5月からは本格的な病理施設として、まず、外科病理から稼働させる予定になっています。

次に、病理医以外のスタッフを紹介します。まず、九州がんセンターから転任してきた永田栄二副臨床検査技師長は、十数年に渡って病理標本作製に携わっており、病理技師のエキスパートとしてシステムの立ち上げの先頭を切って活躍しております。次に鹿児島医療センター非常勤技能補佐員の畠中由美子も、昨年11月から、鹿児島大学において熱心に技術研修を受け、副技師長と共に標本作製を行っています。更に、非常勤臨床検査技師の佐々木ゆかりも病理技術に興味を抱いて活躍の場を求めて加わってくれました。

病理検体数は昨年の実績で2000件弱ですが、病理部



門の新設により、急速に検体数が増加するものと思われます。特に手術の術式等に大きな影響を与える迅速診断が増加すると予想しています。これも常勤病理医の重要な役割と考えています。当院の優秀な外科医と密な連携を取り、鹿児島県民のお役に立ちたいと思っています。また、細胞診件数も2500件前後あります。近い将来、病理診断と共に院内で完結出来るように準備しています。

さらに他の病理施設と緊密に連携しながら病理診断の精度を高め、分子病理学的な検索ができるように施設を整え、病院機能の向上と地域医療に貢献していく予定です。

（文責 臨床病理科医長 野元三治）

鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 第17回生入学式

1学年主任教員 岡田世志美

桜満開、晴天の4月11日、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校では、第17回生125名の入学式が執り行われました。

入学式ではまず、新入生全員の名前が呼ばれ、中村一彦学校長より入学が許可されます。毎年のことながらこの「入学許可」の場面は、新入生だけでなく私たち学校職員も襟を正す思いになります。緊張した面持ちで返事をして立つ新入生ひとりひとりの顔を見ながら『これからの3年間の学校生活での出来事をすべて学びにして、看護師になるための基本的な知識・技術・態度をしっかりと学んで欲しい、そして3年後にはそれぞれが希望を持って羽ばたいてほしい、そのために十分な支援をしていこう』と改めて気を引き締める瞬間です。

入学が許可された後、中村学校長が告示の中で入学にあたっての心構えを述べられました。それを受けて新入生代表の愛川綾さんが「誓いの言葉」を述べ、新入生全員が看護学校で学んでいく気持ちを新たにしました。

看護学生としての3年間で、楽しいことも苦しいことも数多く経験することと思います。在校生代表の恒松真弓さんが述べた「歓迎の言葉」の中にあっただように、苦しいときは一人で悩まず、私たち教員を含め先輩や友人に相談しながらひとつずつ解決し、人として大きく成長していってくれることを期待します。

入学式後の集合写真を見ると、みんな期待と不安が入り混じり、胸いっぱい顔で写っています。3年後にはどんな顔になっているでしょうか。

学校職員一同、実習施設や地域など、多くの方々の協力を得ながら、学生達が素晴らしい看護師になる資質を十分に備えられるよう支援していきたいと思えます。



新new任 紹face介



臨床病理科医長

のもと みつはる
野元 三治

1986年に鹿児島大学医学部を卒業し、天理よろづ相談所病院でレジデントとして2年間研修し、その後当時の病理学第二講座(現人体がん病理学)に所属しました。その間に1995年に医学博士の学位を取得、さらにネブラスカ大学のEppleyガン研究所に1996年より2年間留学いたしました。その後も大学での教育・研究に携わっていましたが、今後は、一病理専門医として精進いたします。臨床医やパラメディカルスタッフと密に連携して病院機能の向上に貢献したいと思っております。



耳鼻咽喉科医長

にしもと けんご
西元 謙吾

平成4年に鹿児島大学を卒業し、耳鼻咽喉科歴は17年目になります。13年前にはレジデントとしてお世話になりました。専門は頭頸部癌、味覚、深頸部感染と統一性がありませんが、その分浅く広く患者さんにお話ができると思います。各科の先生方の御指導、御鞭撻は我々マイナー外科にとっては本当に救いになりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第二循環器科医長

ながの しんじろう
長野 真二郎

H6年鹿児島大学卒業し旧第二内科に入局しました。循環器グループに入った後は不整脈グループで勉強をしました。が、地方巡業が長く県立大島、県立薩南病院などをまわり、子供と一緒に海や山をめぐっていました。仕事に関しては虚血があまり・・・で青い服も苦手です。中村先生、藺田先生、鹿島先生、田中先生と諸先輩の不得意な部分を中心に貢献していけたらと考えています。



心臓血管外科医長

うえの たかゆき
上野 隆幸

平成6年、鹿児島大学医学部を卒業し、旧第二外科に入局しました。平成10年4月からレジデントとして1年間、平成14年10月から心臓血管外科医師として2年6ヵ月間お世話になりました。今回、再び平成20年4月から勤務させていただくことになりました。各科の先生方や看護師さんをはじめとし、その他の関連部署の皆様と連携をとりながら、当院での心臓血管外科診療に専念してまいり所存であります。いろいろ皆様にはご迷惑をかけると思いますが、御指導・御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



第二循環器科医師

いけだ だいすけ
池田 大輔

平成10年に鹿児島大学第二内科に入局いたしました。平成15年に当院に勤務させていただきまして、5年ぶりに帰ってまいりました。オーダリングシステムを含めまして勉強する事の多い毎日ですが頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。



泌尿器科医師

よしの ひろふみ
吉野 裕史

平成14年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学医学部泌尿器科へ入局しました。このたびは平成20年4月より鹿児島医療センターで勤務させていただくことになりました。いろいろ皆様にはご迷惑をおかけすると思いますがご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。



消化器内科医師

ありま しほ
有馬 志穂

この度4月より消化器内科に配属となりました有馬志穂と申します。平成15年に大分大学を卒業し今年で6年目になります。昨年鹿児島大学第2内科に入局、鹿児島市内で勤務しはじめて半年になります。まだ不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願ひいたします。



脳神経外科医師

いしがみ たかし
石神 崇

粟先生の後任として参りました、石神崇と申します。至らぬところばかりとは存じますが、御指導・御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



脳血管内科レジデント

のづま さとし
野妻 智嗣

平成17年に鹿児島大学医学部を卒業し、旧第3内科へ入局致しました。このたび4月より当院脳血管内科レジデントとして勤務させて頂くこととなりました。脳血管内科は脳卒中が中心となりますので、救急に対応する力などを診察に当たりながら身につけていきたいと考えています。経験も浅く、日々勉強しながら知識・技術の向上につとめたいと考えております。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。



消化器科レジデント

のづま あい
野妻 愛

平成17年鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学の臨床研修プログラムで2年間研修しました。平成19年4月に(旧)第二内科に入局後、1年間の鹿児島大学病院勤務を経て、4月より消化器内科レジデントとして勤務することとなりました。消化器内科として初めての勤務であり、不慣れな点も多く、御迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



泌尿器科レジデント

おはら やすお
小原 安雄

平成18年4月に鹿児島大学泌尿器科に入局、今年度より泌尿器科レジデントとして勤務させて頂くことになりました。当院は平成16年に麻酔科レジデントとして半年間お世話になり、とても勉強になりました。当院泌尿器科は外来や手術の多さに加えて、透析やICUでのCHDF管理など、忙しく責任も重く感じています。医師としては7年目ですが、泌尿器科としては3年目と若輩者ですので、いろいろとご指導の程よろしくお願ひします。



麻酔科レジデント

ひがし あきこ
東 晶子

平成16年鹿児島大学卒業後、平成18年に麻酔科に入局しました。一年半大学病院に勤務後、今年の3月まで半年間南風病院に勤務していました。4月から勤務させて頂いていますが、様々な症例があり大変勉強になっています。色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

